

# 平成26年度全国学力・学習状況調査結果の 分析および考察

彦根市教育委員会

## 全国学力・学習状況調査のねらい

全国的な児童生徒の学力や、学習状況を把握分析するとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立っています。

## 平成26年度の実施状況

- ・実施日 平成26年4月22日（火）
- ・実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- ・実施教科等 国語、算数・数学、  
他に、児童生徒質問紙

市内の全小中学校（小学校17校、中学校7校）の全児童生徒を調査

## 調査の特徴

A問題・・・「実生活において大切に常に活用できるようになっていることが望ましい知識や技能が身についているかを見ます。」

→知識

B問題・・・「知識や技能を生活の場面で活用したり、課題解決のために構想を立てて実践し評価・改善したりする力がついていないかを見ます。」 →活用

質問紙・・・学習意欲、学習方法、学習環境、生活などについて尋ねます。

## 彦根市の教科に関する調査結果

※調査の結果は、学力の特定の一部です。

○平均正答数(平均正答率)

教科等	国 語		算 数・数 学		
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
小 学 校	全 国	10.9問／15問 (72.9%)	5.5問／10問 (55.5%)	13.3問／17問 (78.1%)	7.6問／13問 (58.2%)
	滋賀県	10.7問／15問 (71.0%)	5.3問／10問 (52.7%)	12.8問／17問 (75.6%)	7.2問／13問 (55.3%)
	彦根市	10.3問／15問 (68.8%)	5.5問／10問 (54.7%)	12.7問／17問 (74.7%)	7.3問／13問 (56.2%)
中 学 校	全 国	25.4問／32問 (79.4%)	4.6問／9問 (51.0%)	24.3問／36問 (67.4%)	9.0問／15問 (59.8%)
	滋賀県	24.9問／32問 (77.9%)	4.4問／9問 (48.8%)	24.0問／36問 (66.5%)	8.4問／15問 (56.3%)
	彦根市	24.9問／32問 (77.8%)	4.5問／9問 (49.7%)	24.7問／36問 (68.5%)	9.0問／15問 (59.7%)

今回の調査では、主として「知識」に関する問題（A問題）については、市全体の目標としていた平均正答率80%が達成できませんでした。主として「活用」に関する問題（B問題）については、目標としていた全国レベルを上回ることができませんでした。

今回の結果を厳しく受け止め、今後も基礎的な力の確実な定着に継続して取り組むとともに、知識や技能を活用する力の育成をめざした授業改善を中心に学力向上に向けた取組を一層推し進めます。

## 彦根市の全体的な傾向

小中学校の国語、算数・数学とも、全国平均から±5ポイントの範囲内にあり、学力の全体的な傾向は全国と同程度ですが、中学校数学A以外は全国平均正答率を下回りました。

### 国語

平均正答率は、小学校では国語のA問題で全国を下回り、B問題でも、全国をやや下回りました。

中学校では、A問題、B問題とも全国をやや下回りました。

小学校では、漢字を正しく書くこと、故事成語の意味理解、立場を明確にして質問や意見を述べること、わかったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係づけながらまとめて書くことに課題がありました。

中学校では、漢字を正しく読むこと、複数の資料を比較して読み要旨を捉えること、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことに課題がありました。

また、小学校中学校とも問題形式が短答式、記述式の場合に無答率が全国を1～2ポイント上回ることも課題です。

### 算数・数学

平均正答率は、小学校では算数のA問題、B問題とも、全国を下回りました。特にA問題は昨年度と比べると平均正答率の差は縮まりましたが、依然として下回っています。

中学校では、A問題は全国をやや上回り、B問題では全国と同程度でした。

小学校では、小数の計算、四則計算の仕方、立体図形の位置関係の理解など、主として基礎的な学習内容の定着に課題がありました。

中学校では、「数と式」「資料の活用」の領域で学習内容をしっかりと身につけています。B問題の自分の考えを言葉や式を使って説明することについては、全国と同様に課題がありました。

また、小学校中学校とも問題形式が記述式の場合に無答率が全国を2～3ポイント上回ることも課題です。



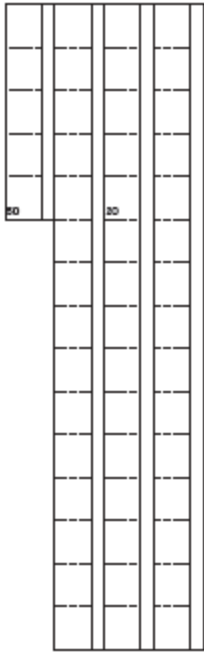
## 特によくできていた点

### 中学校

- ・特によくできていた問題はありません。

## 特に課題のみられる点

- ・文脈に即して漢字を正しく読むこと。
- ・複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること。
- ・下の問題のように、資料から必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと。



三 封筒に貼ってある切手を水の中にしばらく浸しておく、きれいにはがすことができるようになります。その理由を次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

②

次は、接客用について書かれた「本の二題」と「インターネットの情報の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

(中略)

実際には【本の一部】が二ページ、【インターネットの情報の一部】が一ページありました。

小学校では漢字の書きや故事成語の意味理解について課題がありました。中学校においても文脈に即して漢字を正しく読むことに課題がありました。漢字についても故事成語についても、自分の表現の中で活用することが大切です。そのためには、学習したことを日常の言語生活で活用する場面を設定することが求められます。

話合いの時には、自分の意見と相手の意見を比較して、立場や意見の違いを明確にして意見を述べることを求められます。そのためには日々の生活の中で、相手の意見を引用したり、根拠を明確にして話したりするようにすることが大切です。

調べたことを説明する際は、相手や目的に応じて説明する内容を適切に組み立てることが必要です。学校では、このことを意識した説明の場면을学習中意図的に設けるように努めます。

## 算数・数学

### 特によくできていた点

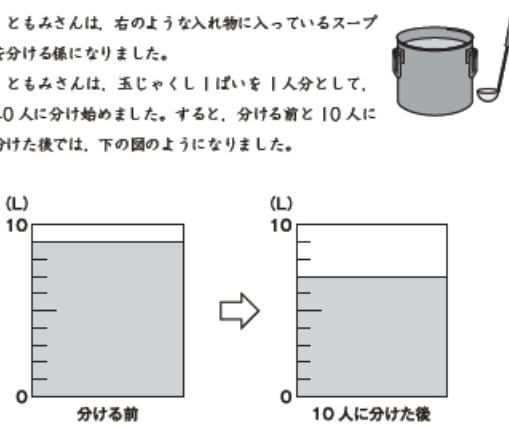
#### 小学校

- 特によくできていた問題はありません。

かつやさんたちは、宿泊学習に来ています。

(3) ともみさんは、右のような入れ物に入っているスープを分ける様になりました。

ともみさんは、玉じゃくし1ばいを1人分として、40人に分け始めました。すると、分ける前と10人に分けた後では、下の図のようになりました。



この分け方で、残りの30人にスープを分けることができますか。次の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1 足りなくなって、分けることができない。
- 2 残さず分けることができる。
- 3 分けることはできるが、残る。

#### 中学校

- 絶対値の意味を理解すること。
- 数量の大小関係を不等式に表すこと。
- 図形の回転移動の前後の辺や角の対応を理解すること。

### 特に課題のみられる点

- 小数の減法の計算をすること。
- 引き算とかけ算の混じった計算をすること。
- 割合が1より小さい場合の比較量の求め方が(基準量)×(割合)の理解。
- 立体図形とその見取り図の辺や面のつながりや位置関係の理解。
- 左記の問題のように、示された情報を基に、必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述すること。

- 特に課題のある問題は 아닙니다。

- 比例の関係を式に表すこと。
- 樹形図などを利用して、確率を求めること。
- 下記の問題のように、与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成させること。

2 一郎さんは、2つの偶数の性質について調べています。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 2つの偶数の和は、偶数になります。この理由は、次のように説明できます。説明1の  には、同じ式が当てはまります。  
 に当てはまる式を書き、説明1を完成しなさい。

説明1

$m, n$  を整数とすると、2つの偶数は、 $2m, 2n$  と表される。  
 このとき、その和は、  
 $2m + 2n =$    
 $m + n$  は整数だから、 は偶数である。  
 したがって、2つの偶数の和は、偶数である。

差の場合も、同じように説明できるね。



小学校では小数の減法や、引き算とかけ算の混合した式の計算について課題がありました。小数の計算については、前年度も加法について課題があり、今年度は減法について課題があることから、小学校3年生時点で、間違いやすいことを前提に丁寧な指導を行うとともに、家庭とも連携して学習内容の定着を図ることが必要です。また、引き算とかけ算の混合した計算は小学校4年生で学習する内容であることから、前述の小数の加法・減法とあわせ、小学校の中学年での算数指導で基礎的な内容の確実な習得を図る必要があります。中学年での指導の上に、高学年では前学年までの学習内容を振り返るとともに、その活用を図り、繰り返し定着を図ることが大切です。

数量の大小を判断した根拠を説明するためには、比較する対象を明確にして考えることが求められます。物事を説明する場面では、比較する対象を明確にする説明の経験を積むことが大切です。

中学校では、基礎的な力は身につけていました。今後は、証明の過程や結論をもとに、発展的に考えることができるようにしたり、問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにしたりすること等に取り組むと、さらに数学の力が伸ばせます。

特によいと思われる点

小学校

- ・自分には、よいところがあると思っている児童の割合が高い。
- ・学校に行くのは楽しいと答えた児童の割合が高い。
- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある児童の割合が高い。
- ・今住んでいる地域の行事に参加していると答えた児童の割合が高い。
- ・友達との約束を守っていると答えた児童の割合が高い。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと答えている児童の割合が高い。

中学校

- ・家の人（兄弟姉妹除く）と学校での出来事について話をすること答えた生徒の割合が高い。
- ・土曜日の午前中は学校の部活動に参加して過ごしていると答えた生徒の割合が高い。
- ・学校に行くのは楽しいと答えた生徒の割合が高い。
- ・今住んでいる地域の行事に参加していると答えた生徒の割合が高い。

特に課題のみられる点

- ・本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館に週1～3回以上行くと答えた児童の割合が低い。
- ・算数の勉強が好きと答えた児童の割合が低い。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見ると答えた児童の割合が低い。

- ・将来の夢や目標をもっていると答えた生徒の割合が低い。
- ・家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校行事に良く来ると答えた生徒の割合が低い。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見ると答えた生徒の割合が低い。
- ・読書は好きですかの問いに当てはまると答えた児童の割合が低い。
- ・数学の授業の内容がよくわかると答えた生徒の割合が低い。



昨年度と同様に、小学校・中学校とも今住んでいる地域の行事について、多くの子どもたちが参加していると回答しています。これは、子どもたちが参加できる行事が地域で企画されているということです。地域の行事に参加し、異年齢の人と関わった経験や地域の中での自分の存在感を確認したことが、次の活動への参加意欲や自己有用感につながります。多様な体験が、子どもたちの学習を支えていると考えられ、今後も子どもたちが地域と深く関わっていくことが望まれます。

また、小学校中学校とも全国より高い割合で学校に行くのが楽しいと答えています。地域での人とのつながりとともに、学校での仲間とのつながりを大切にしていくことが必要です。

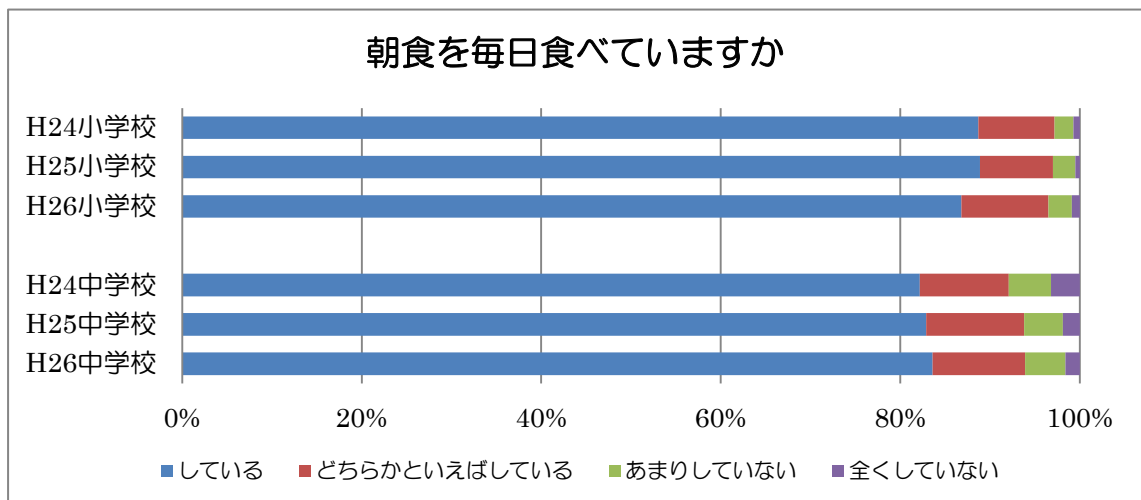
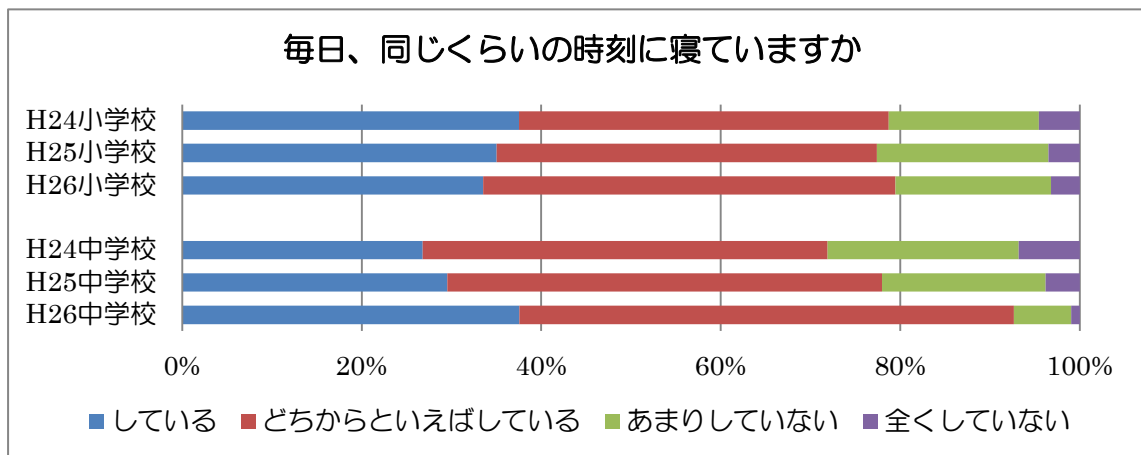
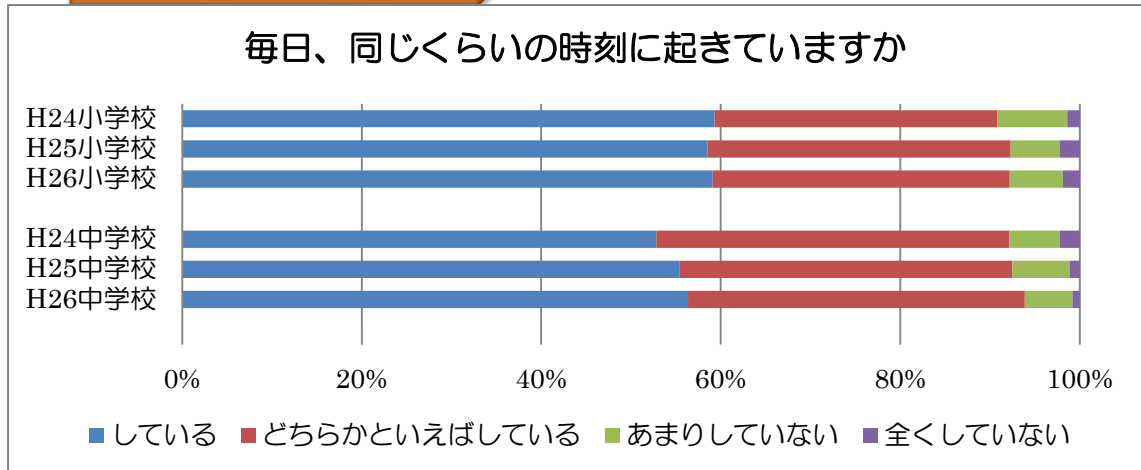
学習に関することとしては、小学校において国語の勉強、算数の勉強が大切だと答えている児童の割合は全国を上回っていますが、中学校で国語の勉強、数学の勉強が大切だと答えている生徒の割合は全国を下回っています。学ぶことの大切さを理解しながら学習に取り組めるようにすることが学ぶ意欲につながります。

ただ、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」という問いに対して、小中学校とも、よく見ると答えた児童生徒の割合は全国平均を下回りました。社会を形成する一員として、世の中の動きや変化に興味関心を持ったり、社会の出来事に対して自分なりの考えを持ったりすることは大切なことです。

また「社会や地域をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という問いに対して当てはまると答えた中学生の割合は、同じ問いに対して当てはまると答えた小学生の割合の半分程度となっています。多様なものの考え方ができるようになる中学生こそ、持続発展可能な社会を担う一員として、自分のできることを考え、取り組んでいってほしいものです。そのため、社会に関わる経験を幼い頃から積み重ね、社会の一員としての自分を自覚できるようにすることが大切です。

## 質問紙の質問内容別

### 生活習慣について



## 彦根市の取組

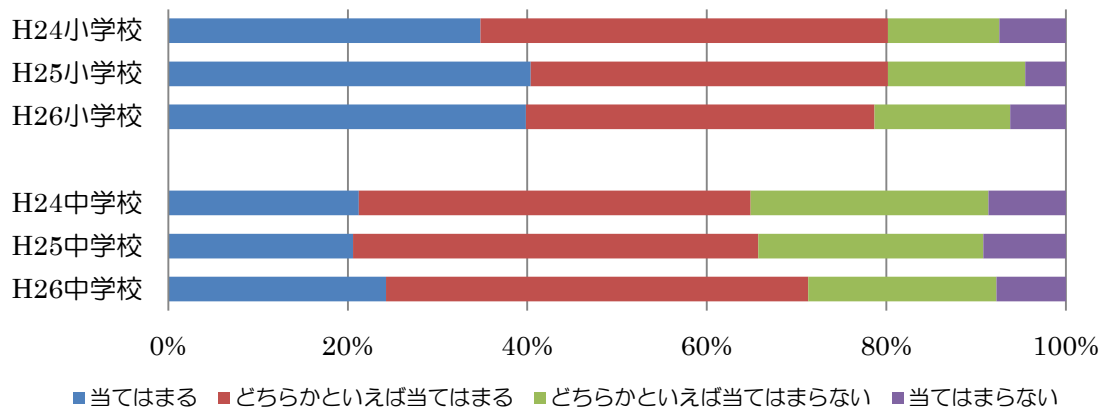
子どもたちの日々の学習を支えるものは、基本的な生活習慣（規則正しい生活）です。上のグラフからはしっかり朝食を食べて、活動するエネルギーを充電して学校に登校していることがわかります。

中学校では、3つの設問とも昨年度に引き続き肯定的に答えている生徒が増え、良い傾向を示しています。

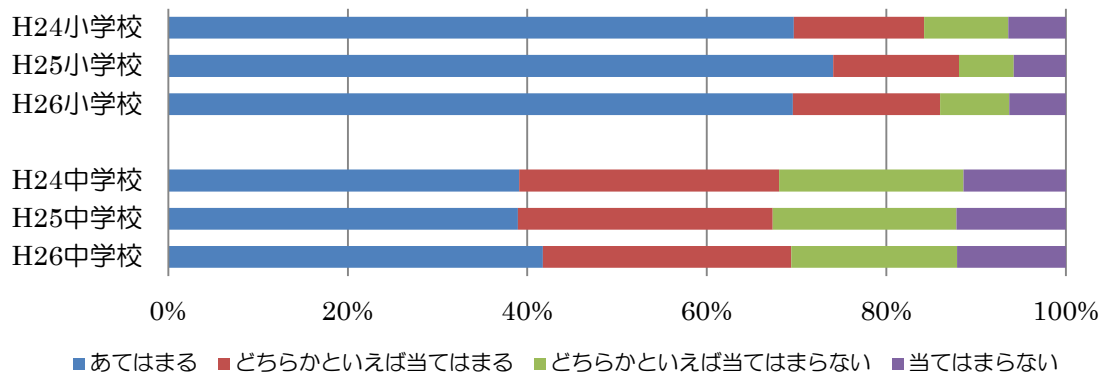
彦根市では、ひこねっこ学びの6か条において生活習慣の確立を呼びかけており、家庭でも取り組んでいただいています。今後も、子どもたちの学習を支える生活習慣の確立にご協力をお願いします。

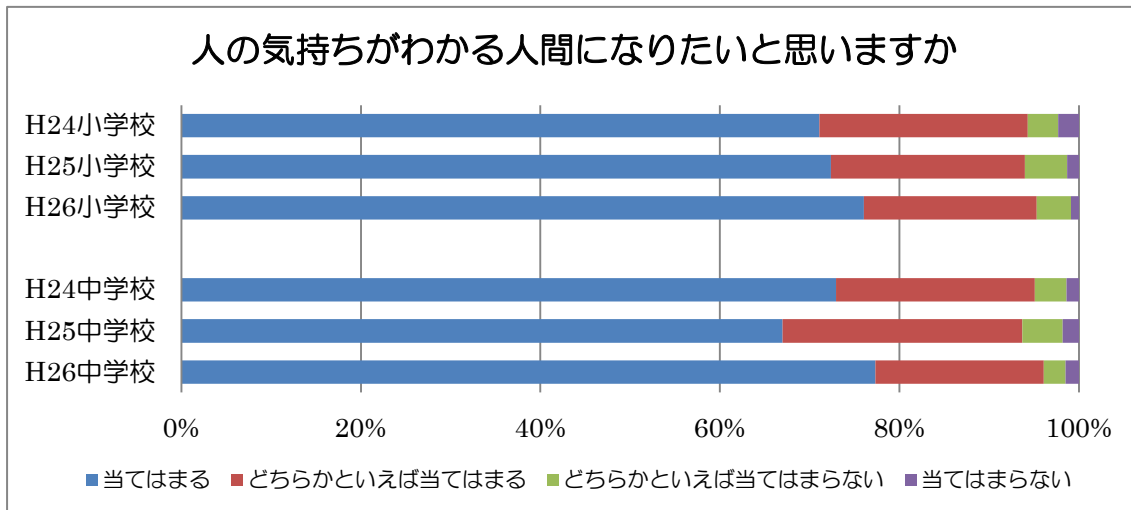
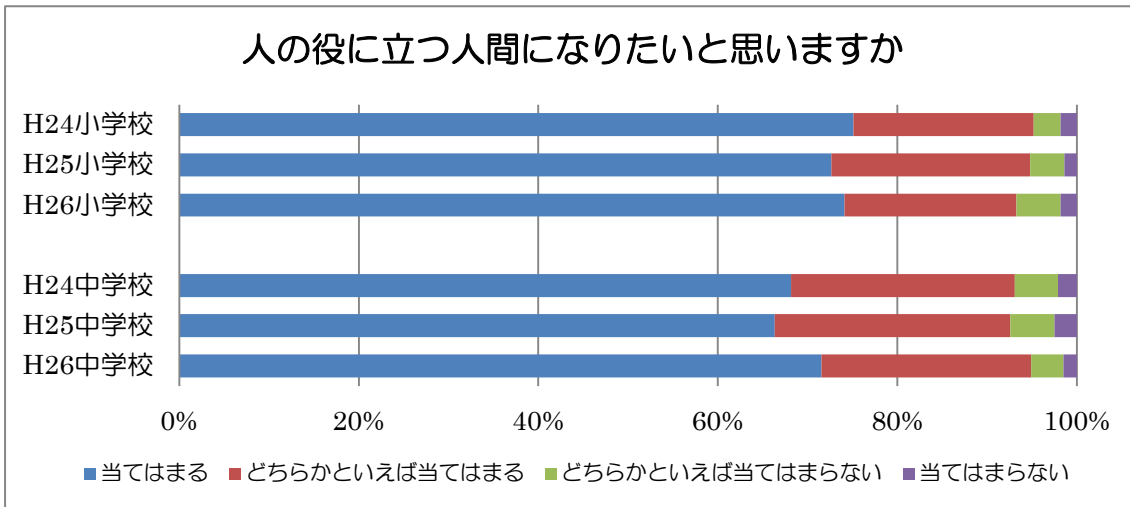
## 自尊感情

### 自分にはよいところがあると思いますか



### 将来の夢や目標を持っていますか





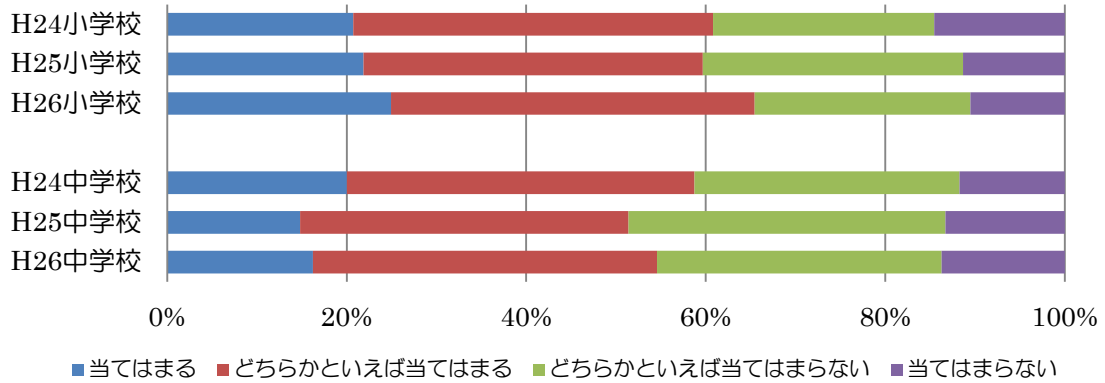
#### 彦根市の取組

学ぶことよさや生きることよさを感じ、自分自身を向上させる意欲をもつためには、まずは自分自身のよさを感じたり気づいたりすることが大切です。上のグラフからは、昨年度と比べて人の役に立つ人間になりたい、人の気持ちがわかる人間になりたいと思う子どもが増加しており、良い傾向を示しています。

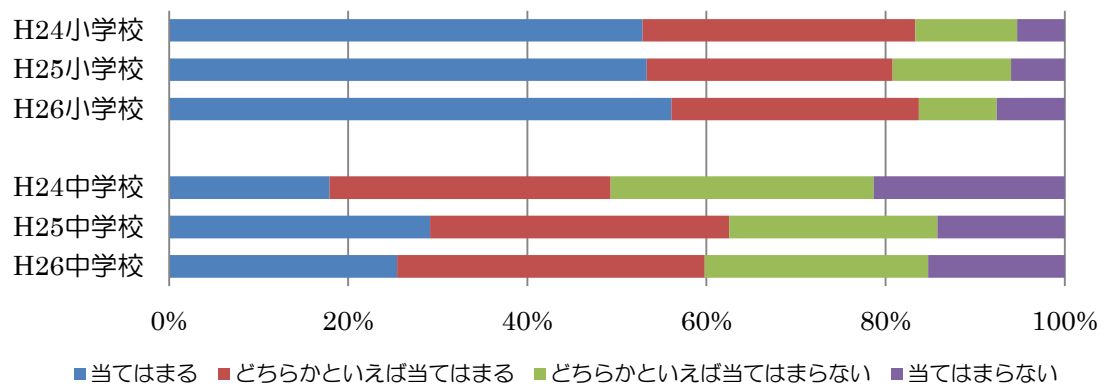
彦根市では、ESD（持続発展教育）、自然の中での体験活動、幼稚園と小学校の5・5交流や中学生の地域貢献活動、職場体験などのキャリア教育、ボランティアなどの社会体験活動、学校行事や学級活動の自主的に自分たちの生活をよりよくしようとする活動を通して、自らのよさに気づき、自分自身を向上させる意欲をもったり、自分のよさを発揮できたりするとともに、社会のために自分のできることを考え実践することができるよう、今後も継続して取り組んでいきます。

社会に対する興味関心や規範意識

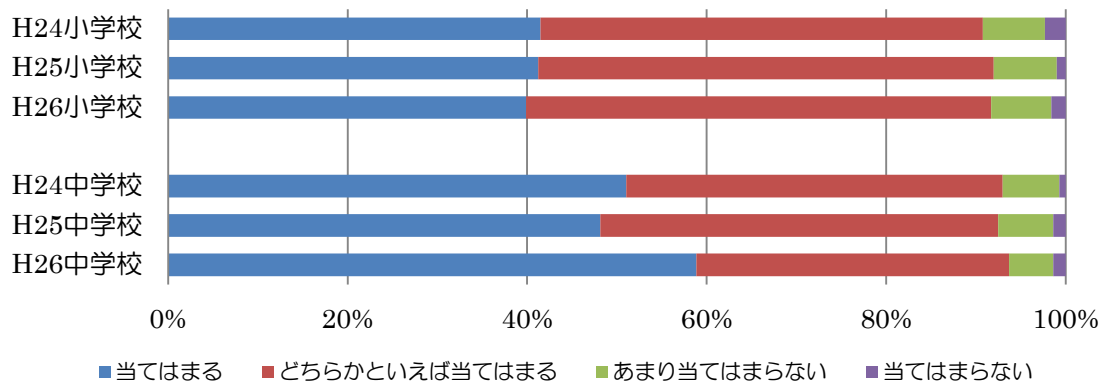
地域や社会で起こっている出来事に関心がありますか

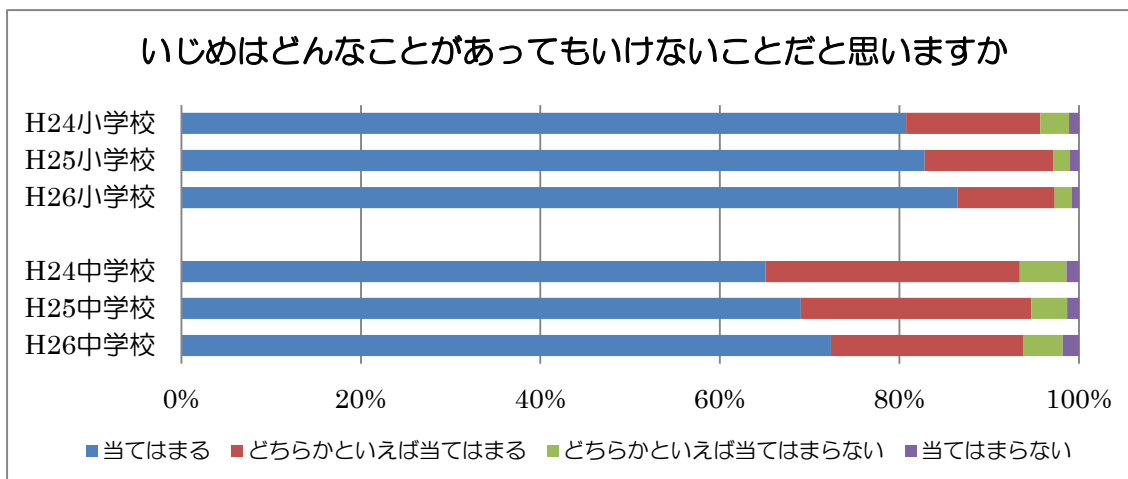


今住んでいる地域の行事に参加していますか



学校のきまりを守っていますか





#### 彦根市の取組

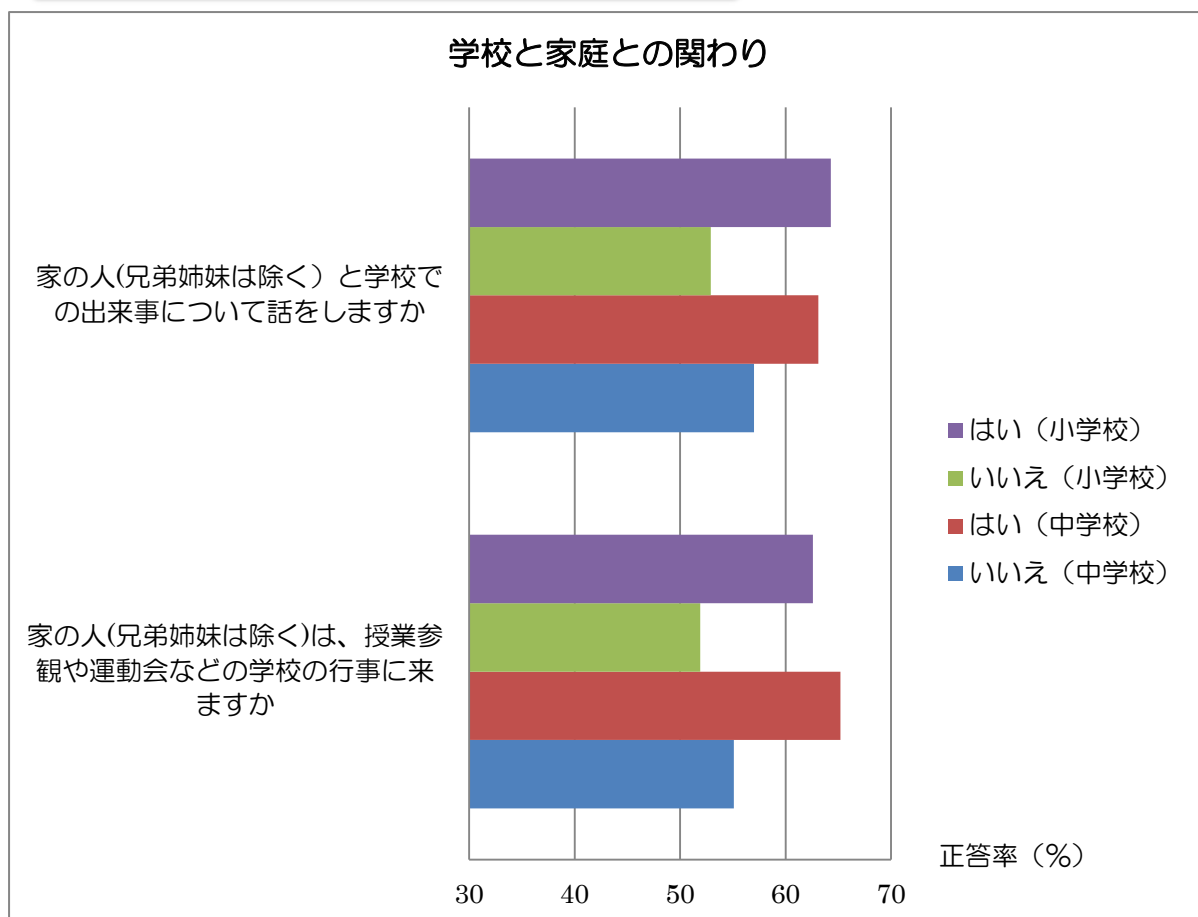
上のグラフから、過去3年間で最も多くの子どもたちが、いじめはどんなことがあってもいけないと考えている姿がうかがえます。

いじめを許さない思いとともに、自分たちの学校を自分たちでよりよくしていこうとする気持ちや実践力をもつことが大切です。その思いが、学校から地域へと広がることで、地域に進んで関わる子どもの育成につながります。

彦根市では、全ての小学校、中学校でいじめ防止対策基本方針を策定し、いじめの未然防止、早期発見および適切な対応に取り組む中で、児童会や生徒会活動の取組を充実させ、いじめの防止に取り組み、子ども自身のよりよく生きようとする心情や態度を育てています。

## 学力調査と質問紙調査とのクロス集計から

### 学校と家庭との関わりについて



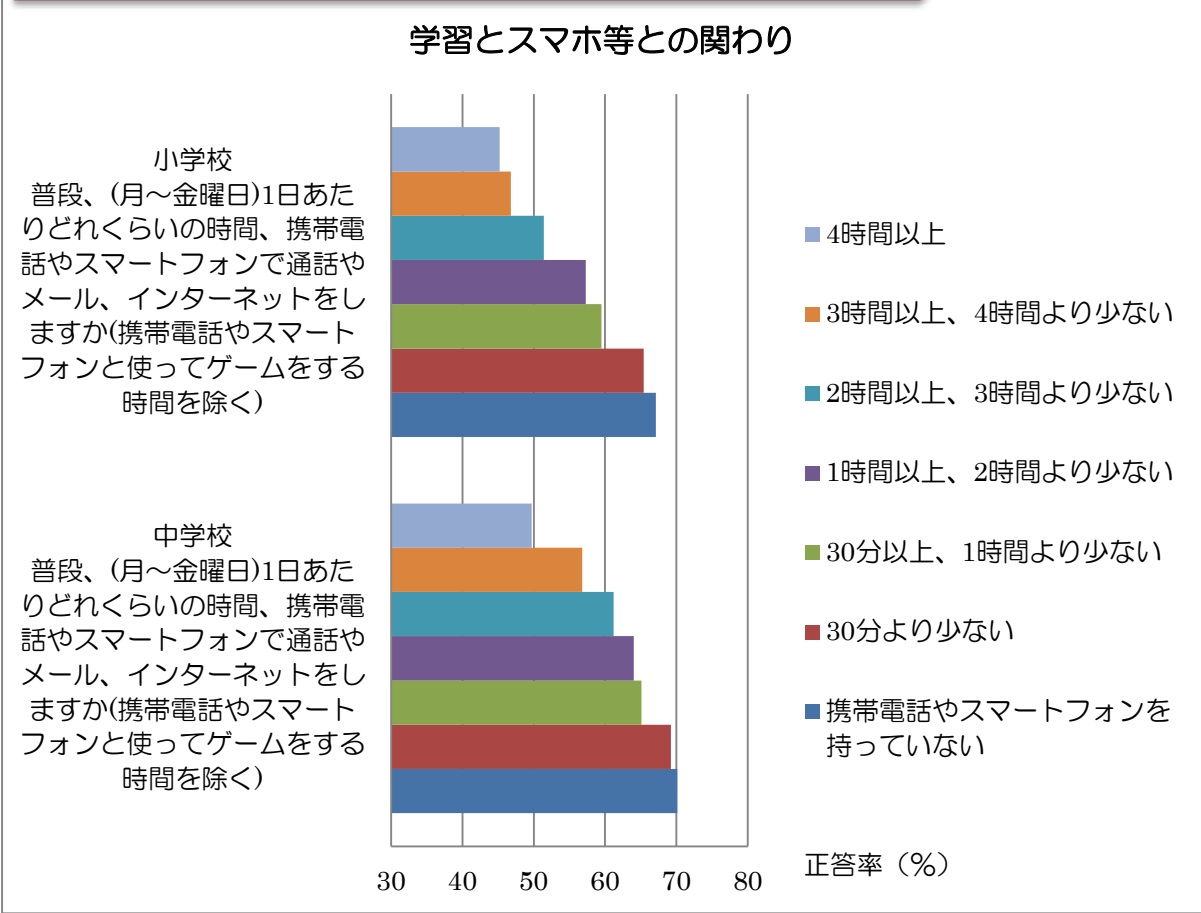
◇「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」という問いに肯定的に答えた子どもは、否定的に答えた子どもに比べて、正答率が小学校では12ポイント以上、中学校では6ポイント程度高くなりました。

◇「家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」という問いに肯定的に答えた子どもは、否定的に答えた子どもに比べ、正答率が小学校では11ポイント程度、中学校でも10ポイント程度高くなりました。

子どもたちが学校での出来事を家の人に伝えること、家の人が学校での子どもの様子を見ることと、学力との間に関係がみられました。

学校では、子どもたちが家の人に学校でどんな生活をしたか、何を学んだかを話したくなるような充実した学校生活を送れるよう努めます。その思いを家庭でしっかりと受け止めてあげてください。また、学校では子どもたちの様子を見ていただける機会を設定していますので、学校での子どもたちの様子を見て、そのことを話題として子どもに言葉をかけてあげてください。

学習と携帯電話・スマートフォンとの関わりについて



◇「普段、一日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」という問いに対して、小学校で「4時間以上」と答えた児童は、「30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と答えた児童と比べて、20ポイント以上正答率が低くなりました。

◇同様の問いに対して、中学校で「4時間以上」と答えた生徒は、「30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と答えた生徒と比べて、20ポイント程度正答率が低くなりました。

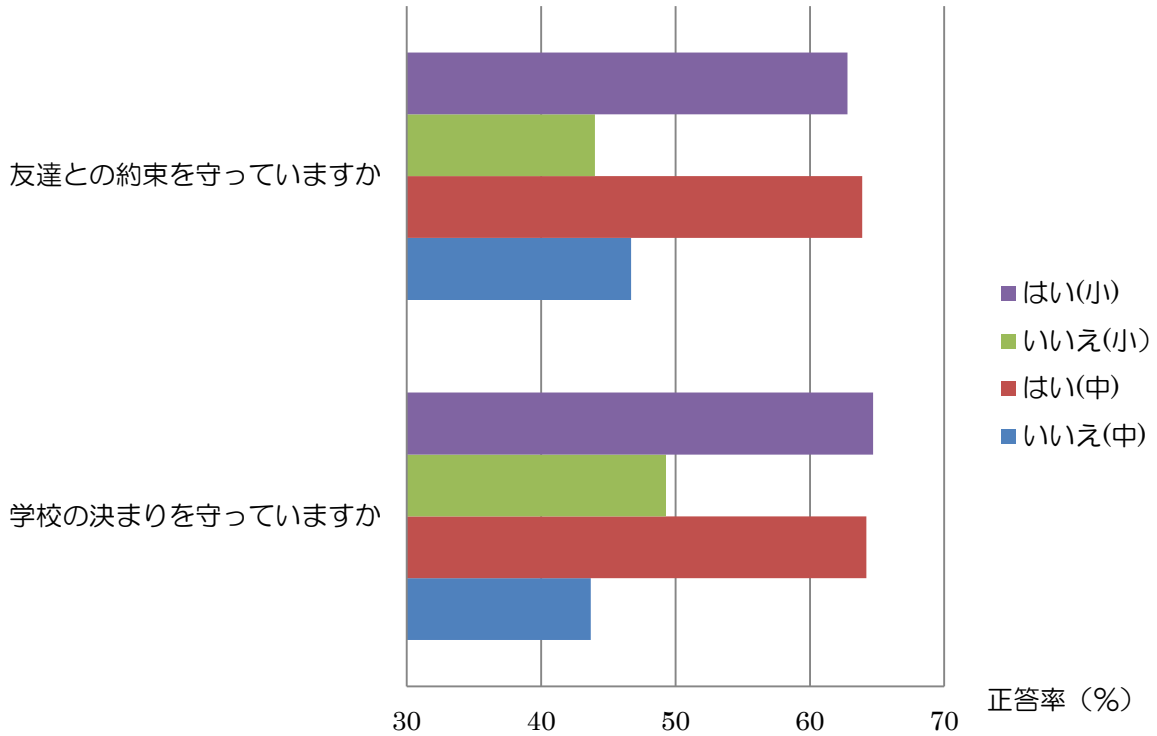
小学校、中学校とも、携帯電話やスマートフォンを使って通話やメール、インターネットをする時間と学力との間に関係がみられました。

彦根市では、20%の中学生が「3時間以上」携帯電話やメール、インターネットをしていると回答しています。

携帯電話やスマートフォン等を使ってコミュニケーションしたり、インターネットにアクセスしたりすることは、子どもたちの日常生活の一部になりつつありますが、それぞれの家庭でルールを決めて、よりよい使い方を考えることが大切です。



学習と決まり等を守ることとの関わり



- ◇「友達との約束を守っていますか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に答えた児童は、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と否定的に答えた児童と比べ18ポイント正答率が高くなりました。中学校では、同じ問いに対し肯定的に答えた生徒は、否定的に答えた生徒と比べ17ポイント正答率が高くなりました。
- ◇「学校の決まりを守っていますか」という問いに対して、肯定的に答えた児童は、否定的に答えた児童に対して、15ポイント正答率が高くなりました。中学校では、同じ問いに対し肯定的に答えた生徒は、否定的に答えた生徒に対し、20ポイント正答率が高くなりました。

小学校、中学校とも、約束や決まりを守る規範意識と学力との間に関係がみられました。

ルールや約束事を守ることは、社会の形成者として大切な資質の一つです。善悪や、優先順位を判断するなど、自ら判断し正しく行動する力は、学習だけでなく、日々の生活においても求められます。

学校だけではなく、家庭や地域の生活でも、ルールや約束の意味を考え、決まりを守ろうとする規範意識を育てる場面は多くあります。

周囲の大人たちが、正しい規範意識を持って行動するとともに、子どもたちが見せる良い姿を賞賛し、伸ばしていくが大切です。

### 学力調査から

国語科は、小学校では漢字を書くことや故事成語の理解、中学校では漢字を正しく読むことなど、「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する事項について課題がありました。

言葉に関する事項は、毎日の言語生活の中で繰り返し使うことで、定着が図れます。学校において、学習中に既習の言葉を積極的に使い、言葉の定着をめざします。

また、様々な言葉に触れる経験を豊かにするため、詩や短歌、俳句、古典などの名文を音読したり、暗唱したりする取組を推進します。

あわせて、小学校1年生から動作化を取り入れた言葉の指導を市内の全小学校で行い、基礎的な言葉の力の確実な定着をめざします。

算数・数学科では、全国と比べて、短答式、記述式の解答形式で、無答率が高くなる傾向があります。

課題の解決に向けて自分の考えをはっきりと記述する力を伸ばすため、日常の学習の中で、自分の考えをノートに書く機会を増やすとともに、落ち着いて考えを書く時間を十分に確保し、思考力、表現力の向上をめざします。

### 質問紙調査から

本年度も小学校、中学校とも「学校に行くのが楽しい」と答えている子どもが多いことが特徴としてあげられます。本年度から各学校では「学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめの未然防止に向けた取組を進めています。子どもたちの「学校に行くのが楽しい」という気持ちを大切にしながら、豊かな人間関係を育んでいきます。

気になる点としては、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という問いに「当てはまる」と答えた子の割合が全国平均を下回る点です。

彦根市ではESD（持続発展教育）を学校教育の中心に据えて取り組んでいます。子どもたちが将来のために、社会のために自分ができることが何かを考える力を伸ばし、実践につなげることができるよう、ESDの一層の充実を図ります。

## 学力調査と質問紙調査のクロス集計から

学力調査と質問紙調査をクロス集計することにより、学力と子どもたちの生活の間には関係があることが明らかになっています。

規範意識と学力の関係では、約束や決まりを守ることに肯定的な児童生徒は、平均正答率が高いことがわかりました。決まりやルールを果たす役割を理解し、よりよい生活のために自分の行動を律することができる思考力や判断力が、学力にも大きな役割を果たしていると考えられます。

学力と携帯電話・スマートフォンの利用時間との関係については、利用時間が長くなるほど平均正答率が下がることが見えてきました。

情報機器の適切な使い方について、学校でも、情報モラル等の学習で指導を進めます。

しかし、これらの問題は学校だけではなく、地域や家庭も一体となって改善に向けて取り組むことが大切です。

子どもたちを取り巻く学校・地域・家庭が、彦根の子どもたちの自律心や判断力の育成に向けて、それぞれの場で力を発揮できるよう、働きかけていきます。